

環境保全活動

環境への負荷を低減することは、事業活動を持続的に発展させるために不可欠な取り組みです。荒川化学グループではそのことを最優先課題として認識し、一丸となって取り組んでいます。

CO₂排出量の削減

省エネルギーを中心とした削減努力によりCO₂排出量を減らしました。

生産活動では燃料や電気というエネルギーを消費し、それに伴い地球温暖化ガスのCO₂を排出します。CO₂削減の種々の施策を実施しました。

- 工程中の無駄な加熱時間を厳密に排除。
- 蒸気配管からの漏れを徹底的に無くした。
- モーターを節電型に変更(インバーター化)。
- 富士工場は「自主参加型国内排出量取引制度(JVETS)」で目標削減量達成。
- 冷却装置の使用を停止し、電力を削減した。
- エネルギー効率の悪い古い設備を更新。
- 遮熱塗料の採用やLED照明への置換の採用。

外的要因として震災による小名浜工場の被災や、夏期節電への対応、不況などにより会社全体の生産量が減少しました。

省エネルギーの対策実施、および外的要因により、CO₂排出量は減少しました。

単位生産量当たりのエネルギー消費量を示す「エネルギー原単位」は、生産量減少と新設備立ち上げ時の非効率操業により上昇しました。

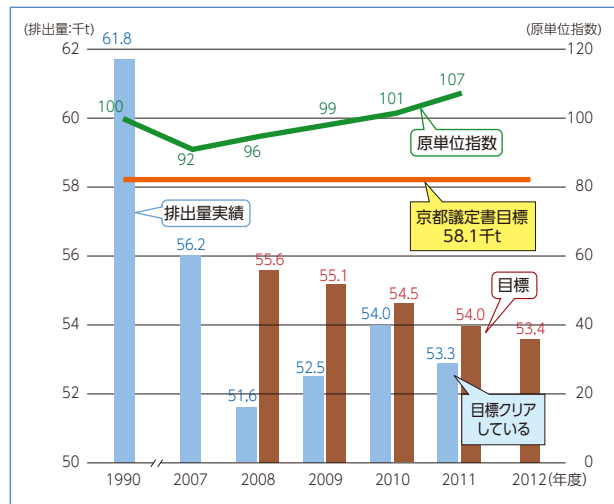


事務所天井LED照明(パルノックス)

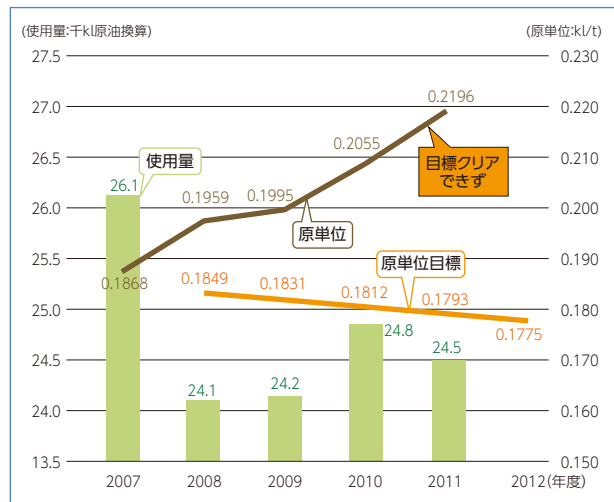


反応釜のLED照明(水島工場)

CO₂排出量の推移



エネルギー使用量の推移



Voice

2011年夏の電力使用制限の取り組み



富士工場
工務課
勝又 博昭

2011年7月～9月9日まで、経産省から電力使用制限が発令、最大使用電力が2010年15%削減となりました。新プラントも稼働し始め、明らかに目標値を超過することが予想されたので、他の事業所でも休日をずらすなどして規制値を超過しないよう協力し合うことで、グループ全体で使用電力15%削減に取り組みました。この取り組みを通じて、省エネルギーに対してより厳しく推進していかなくてはという姿勢を再認識できました。